

技術確認書・2001年9月

圧縮機VP 10/9： 運転電流の低減 分解・停止不要

ディゴラ段ボール箱工場・電気・動力設備保全責任者V.M.スメノフ・処理実施：ヴラド・XADO社
北オセチア・アラニア共和国、ロシア・2001年8月6日処理・2001年9月2日付確認書

製品

「XADO技術」による処理
XADOの処理剤による修理・再生
作業（分解不要）

試験対象

圧縮機VP 10/9
2段往復圧縮機・工場の圧縮機ユ
ニット

文書の種類

技術確認書
署名・押印付き

機械類

運転条件

測定項目

圧縮機VP 10/9（2段往復式）

通常稼働：稼働中の機械への処理、
分解・停止不要

処理前と、処理後160 hの運転を経た時
点の運転電流

処理は2001年8月6日に実施し、確認測定は圧縮機の160 h運転後に行った。

主要な結果

↓ **8.8 %**

圧縮機の運転電流、110.8 → 101 A

圧縮機VP 10/9の運転電流

パラメータ	処理前	160 h運転後	低減
運転電流	110.8 A	101 A	9.8 A・8.8%

測定時点までに処理は2段階で行われたが、いずれも部分的な実施にとどまっており、結果は処理サイクル未完了の状態で作られたものである。

確認書の結論

圧縮機VP 10/9は「XADO技術」により、分解せず、生産も停止せずに、通常運転のまま処理された。**160 h**の運転後、運転電流は**110.8 A**から**101 A**に低下した。確認書は、この時点までに処理が2段階で行われたものの、いずれも部分的な実施にとどまっていたことを特記しており、数値は処理サイクル未完了の状態で作られたものである。確認書の文言を逐語訳すると、「得られた結果は、少なくとも**9.8 A**の消費電力量の削減について述べる根拠となる」とある。連続運転の圧縮機ユニットでは、これは費用に直接関わる事項である。運転電流の低減は稼働中の機械で維持されており、設備を修理のために運用から外すことも、部品を交換することもない。

XADO

© XADO。無断転載を禁じる。

本結果は、当該設備の2段往復圧縮機VP 10/9に関するものである。他の機械類や他の負荷条件では、測定値が異なる場合がある。処理はヴラド・XADO社（ウラジカフカス）が実施し、確認書の作成・認証も同社が行った。署名・押印のある確認書の原本は全文を公開しており、ダウンロードできる。